

第1回栗原圏域宿泊事業者部会

【日時】令和7年6月9日（月）午後2時から午後4時まで

【場所】栗原合同庁舎 第一会議室西（3階）

【委員からの主な意見】

（1）施策1 コンテンツ磨き上げ・創出これら取組を行うための体制強化（観光地域づくり支援）

【観光消費額増加のためのまち歩きマップ、イベントの開催】

○宿泊客が連泊して近隣地域を散策する際などに使える、飲食店等の情報が掲載された「まち歩きマップ」などがあると、観光消費額の増加にもつながり良いと思う。

○栗駒山の紅葉時期の観光消費額を引き上げるためのイベント等を実施する際は、お金を落としてもらうための仕組みや工夫が必要と感じる。コロナ禍以降、栗駒山の登山客の入浴の利用も減り、消費しなくなっている印象がある。

【ジオパークをテーマとした広域連携ツアー】

○栗駒山麓ジオパークと南三陸、湯沢などのジオパークと連携した広域周遊、広域観光ができると面白い。

○栗駒山麓ジオパークと、各地のジオパークの違いを学べるようなツアーができるとよい。

【宿泊施設同士の連携による小型車両での観光ツアーの商品化】

○個人旅行が中心になってきており、宿泊施設が連携したオプションツアーのイメージで、ハイエースのような大きな車を使い、複数の宿泊施設を経由して観光に回るような、小回りがきく、小規模な観光のプランを作れるとよい。

【宿泊者への地域ポイントの提供】

○ビジネスホテルに宿泊される方は仕事目的で連泊する方も多いので、そうした方が後日、家族で余暇を過ごそうと思ったときに滞在先として宮城県を選んでもらえるよう、納税する宿泊客にポイントが溜まるような取組があると良い。

【地域観光の舵取り役を担う体制整備、協議会運営への支援】

○今まで集まる場がなかった宿泊事業者が意見交換できる場ができたことも踏まえて、各業種の観光関係者をとりまとめ、方向性付けをできるような地域観光の舵取り役を担う体制整備を進めていただけると良い。

○こうやって話し合う場があるとよい。国の補助事業の活用などについても、行政に入ってもらって、協議・検討が進められると、各事業者の困りごとにも連携して対応できる。祭りの担い手不足対応も絡めると、関係人口の構築にもなりえるので、宿泊税を活用して、こうした協議会の運営支援も視野に入れてもらおうとよい。

○地域の宿泊事業者が集まる場は意外と少ないので、今回のような場を通じて情報交換できることは非常に参考になる。宿泊客を奪い合うのではなく協力して回しあい、連携して地域活性化につなげられるとよい。

【その他】

○平泉等との広域連携の話があったが、一関地域にはすでに黄金ルートがあり、栗原地域が入り込むのは難しい。栗原地域で2泊できるコースをつくっていく必要があると思う。

○「バス旅」の企画が実施されているが、栗原地域の取り扱い商品については日帰りである。宿泊のプランを作してほしい。

（２）施策２ 仙台からの送客・（仙台圏域内での）周遊性向上のための二次交通対策

【栗原版「NAVITIME」のような乗換案内サイトの構築】

○ＪＲと高速乗合バス、市民バス等の、地域内を運行する公共交通の乗り継ぎ時刻や場所、運賃等について、利用者が出発地と目的地を入力すれば容易に検索できる、栗原版「NAVITIME」のような乗換案内サイトが構築されると良い。

【紅葉シーズンの仙台空港からいわかがみ平への直通乗り合いバスの運行（インバウンド対応）】

○仙台＝栗原間の高速乗合バスを運行するバス事業者と連携して、高速乗合バスを活用した送迎付きの宿泊プランを打ち出したところ好評で、一定の集客につながっている。

○オンシーズンには仙台空港＝いわかがみ平の直通の高速乗合バスがあれば、インバウンドも含め、乗り換えの不安なくダイレクトに観光地に来てもらえると思う。

【公共交通機関から宿泊場所までの移動手段確保のための支援】

○旅行業法や道路運送法等があり、宿泊事業者が単独でプランを作ることはできず、バス等を手配する料金も高騰しており、そうした料金への補助や、特区等による規制の緩和があれば良い。

○コロナ後、宿泊者が減っており、現在はＪＲくりこま高原駅まで送迎もしているが、旅館から往復100キロとなる。仙台市内からのライドシェアやタクシー事業者等に補助金が入る仕組みを取り入れていただければありがたい。

○個人旅行が中心になってきており、宿泊施設が連携したオプションツアーのイメージで、ハイエースのような大きな車両を使い、複数の宿泊施設を経由して観光に回るような、小回りがきく、小規模な観光のプランを作れるとよい。

（３）施策３ 快適な旅行環境のための受入環境整備

【くりこま高原駅等から宿泊施設までの交通対策支援】

○栗原地域はタクシーが少なく、夕方・夜は移動が困難。ＪＲの駅等から宿泊施設まで、宿泊事業者が送迎しているが、地域の宿泊事業者の多くは小規模事業者であるため人手が足りず、雇用を増やすことも難しい。サービスを充実させたくても難しい状況にある。こうした地域の実情を踏まえた上で、施策を検討してほしい。

○コロナ禍であったビジネスモデル転換支援補助を活用して、宿泊部屋をサイクリング客に合わせた仕様に改装したが、二次交通への対応については、宿泊事業者等がある程度の人数を乗せられる車両

の購入に活用できるような、要件の緩やかな補助事業を望む。

○タクシー不足に対応して、一般の人が登録して、送迎の需要に対応できるような仕組みがあると良いのでは。

○受入環境整備について、インバウンドの宿泊客は、言語や食の対応については、スマホの検索・翻訳機能やコンビニ・スーパー等を活用しており、そこまで気にしていないように見える。それよりも、時刻表を一括で検索できるサイトの構築やレンタカーの充実等を進められると良いのでは。

【人手不足対策と関係人口構築】

○人手不足について、繁忙期にスポットで人材を確保できるサービス（「Timee」）や、副業のマッチングサービス（「サンカク」）を活用し、地域外の人材を活用している。

○市と連携して「おてつたび」を通じて都内の学生を受け入れ旅館業務を手伝ってもらったことがある。参加学生は地域のファン、関係人口にもなってくれるが、1事業者での受入は負担が大きいののでそういった点への支援や、宮城県に来るまでの交通費等の補助があればありがたい。

○人材育成について、宿泊事業、バス事業とも、働き手の年齢層が高く、将来的な担い手となる若い世代にフォーカスを当てた人材確保・人材育成が必要。

（４）施策４ ターゲットを意識した効果的なプロモーション

【仙台空港での栗原PRイベントの開催】

○インバウンド向けに、仙台空港で栗原地域をPRするイベントができると良い。

【二地域居住者等関係人口を活用した情報発信】

○二地域居住で花山に滞在しているに女性に SNS 等での情報発信を手伝ってもらったところ効果があった。また、その方が首都圏の女性客を連れてきて、地域を回り、深掘りして楽しんでいる。そうした人材を活用したプロモーションや関係人口の構築も有効ではないか。

【産後ケア事業と連携したプランの造成】

○ターゲットを絞るという点で、「産後ケア事業」として、新生児と母親が温泉旅館などに滞在しながら助産師等のケアを受けられる取組や、地域食材を活用した離乳食づくりの講座などのプランも良いのでは。

【初見のインバウンド客が栗原まで足を運ぶことのできる情報の発信】

○海外からの宿泊客も来てはいるが、宮城県内の各地域の観光地の情報が知られていないと感じる。また、地域のことを全く知らない人を見ると、どうやって行ったらよいかわからないような情報発信の仕方になっている。

○インバウンドの人にとって、仙台空港から松島、蔵王で終わってしまう。宮城にはじめて来た人に、一からの（十までの）情報を伝える工夫をしてほしい。

【その他】

○栗駒山は紅葉の時期の客が非常に多いが、新緑の時期も素晴らしいので、そこをPRすることで年に2回来ていただけるようになるのでは。

○観光に来て地域にお金を落としてくれる層は60～70代とみており、そこをターゲットとすると、ホームページやSNSによる情報発信に加え、テレビCMも必要かと感じている。

○新幹線で駅に着いてから地域の観光スポットを回る旅の一連の流れを、移動手段を含めて紹介する動画発信があれば良いのではないかな。

○インフルエンサーを呼んで「聖地巡礼」していただく動画の発信など、インターネットを使った仕掛けをすることで、若い観光客、SNSを見る方が栗原を訪れるのではないかな。